

(調査様式1)

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成28年7月21日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4671100180
法人名	医療法人 椎原会
事業所名	高齢者グループホーム有馬館
所在地	鹿児島県南さつま市加世田地頭所570番地 (電話) 0993-53-3667
自己評価作成日	平成28年5月31日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島県鹿児島市下荒田2丁目48番13号
訪問調査日	平成28年7月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- 1、毎年、年間目標を立てて介護に取り組んでいる。半年後には中間反省をして全員で目標に近づく努力をしてレベルアップを目指している。
- 2、個別に担当を決めて日々の暮らしを支援している。また、各担当で毎月モニタリングをして経過の観察と評価をしている。それをもとにミーティングで検討してケアの統一を図っている。
- 3、隣接の病院のリハビリテーションに参加している。さらにその指導のもと個々の機能に合った運動を毎日実施することで機能維持を図っている。食の面からは栄養計算を行ってカロリー、バランス、量等について工夫をして健康を支えている。
- 4、有馬館便りを年に3回発行して県外に住む家族にも近況を添えて送付し暮らしぶりを伝えて安心と関心を持ってもらうように配慮している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・当ホームは、市中心部にあり幹線道路沿いで交通のアクセスも良く法人の医療機関に併設したグループホームである。

・利用者や家族は、いつまでも元気で自分の足で歩きたいと希望しており、リハビリに対する意識も高く、週3回外来リハビリに出向き地域の方々とも交流している。

職員は、生活行為や歩行状態に不安がある時などは、直接セラピストに相談して問題の解決を図るなどしている。利用者全員が、歩行器を活用し移動している。

・地域も高齢化しているが、利用者や職員は地域の行事や学校の行事などを通じてなるべく外出の機会を作り地域と繋がるようにしている。また、利用者はそれぞれの地域に帰り家族を通じて交流する機会を大切にしている。毎年正月は、家族の協力を得て外泊される方もいる。

・管理者は、職員に年1回アンケート調査を実施し個人面談して、職員の意見や提案などを聞き取り、ミーティングなどで話し合い出された意見をケアに活かすよう努めている。また、職員の人員が不足した場合には運営推進会議や家族会などで家族に理解を求めるなど、常に早め早めに説明と同意をもらうよう配慮している。

・運営推進会議は定例化され、家族には交代で参加していただいているが、契約時に地域密着型施設であることの意味合いや介護保険制度について、利用者や家族に十分に説明し理解を深めているため、家族と一体となった運営ができている。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	理念は廊下とスタッフルームに掲示して、毎週月曜日の申し送り時に唱和している。また、ケアの姿勢を振り返る時には理念を基本に考えるようにしている。	昨年、管理者やスタッフ全員で見直しをして現在の理念になっている。週1回申し送り時に唱和し常に理念を意識したケアに努めるなど理念を共有して実践につなげるなどしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の一員として周辺のゴミ拾いに参加したり、回覧板で情報を得て行事に参加して地域との交流を図っている。	自治会に加入し、回覧版のやりとりをして地域の情報を収集したり、清掃活動への参加や小学校の運動会見学、市民文化祭に外出している。また、毎年中学生の職場体験や高校生の実習の受け入れをして地域と交流している。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	高校生の実習、中学生の職場体験などの受け入れをして、認知症高齢者の日常や支援方法などを伝えている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族、地域、行政の参加を得て入居者の状態やサービスの現状を伝えている。意見や助言は日々のケアで生かすように努めている。	契約時、事業所の取り組みなど運営について意見交換することの重要性を説明するとともに家族には、積極的な参加を促し理解を求めていることもあり家族は交代で会議に参加している。管理者は、生活の状況などを詳細に報告したり、家族に協力を求めるなどして事業所運営に努めるなどしている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に出席してもらうことで入居者の状況を身近にみてもらっている。日頃のケア、サービス内容などを報告、相談して適切な助言をもらっている。	担当者とは、直接面談したり電話でのやりとりも多く報告や連絡、相談などして協力関係を築いている。市主催の懇親会への誘いや参加があり、グループホーム連絡協議会の研修会へ参加しスキルアップを図っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	禁止の対象となる具体的な行為はスタッフルームに掲示している。法人の委員会に出席したり勉強会を行って身体拘束をしないケアを実践するために日頃から検討している。	来月、ホームだけの勉強会を予定している。管理者は職員が身体拘束の弊害について意識づけをおこなえるよう工夫しており、法人全体の委員会へも参加して一層の研鑽を積んでいる。玄関は施錠せず自然な暮らしに配慮しているが、ふいに外に出て行かれる方がいるため、職員は注意深く見守り付き添うようケアしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修や勉強会で学ぶ機会を作るようにしている。日頃のケアの中での言動についてもスタッフ全員で振り返り虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度の対象者はないが、研修などへの参加を通じて学ぶ機会を作るようにしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関する事項は書面で丁寧に説明しながら不安や疑問に応じるようにしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	いつでも意見や要望を受け入れる姿勢を示すために館内に意見箱を設置し苦情受けの担当や第三者委員の表示をしている。遠方の家族へもより広く要望や意見を求めるために有馬館便りと一緒に日頃の様子や状況を知らせる便りを同封して情報を発信している。	管理者は、2～3年に1回家族向けのアンケート調査を実施している。また、家族会ではより一層家族間の親睦が図れるよう会の進行についてのアンケートも実施している。家族には、早め早めに状況報告をおこない不足の事態がおきないように配慮している。日頃から意見や要望が出しやすい雰囲気作りに努め利用者本位に暮らせるような運営に努めている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に1回職員へのアンケートと個別面談を実施して意見や提案を積極的に聴き、その結果を全員で検討している。また契約や重要事項の説明書を読んで運営について知る機会も設けている。	管理者と職員は、年1回個人面談している。また、職員向けのアンケート調査では、職員の意見や提案などがありミーティングで話し合い、会議の席でスタッフ一人一人から一言ずつ意見を出してもらっている。昨年から、「気づきノート」を作成し活用している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々に年間目標を立ててもらって向上心を持って働けるように支援している。また、資格取得についても可能な限り環境の整備をしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々のレベルや能力に応じた研修や勉強ができるように支援している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県や地区のグループホーム協議会の一員として研修会や勉強会に参加して交流を図り、サービスの質の向上を目指している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	見学や家庭訪問、体験入居などを通して思いや不安を受け止め安心してサービスが開始できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	訪問や見学の機会にできるだけ詳細に状況を把握して不安や要望を聴き取るようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	要望や現状をきちんと聴き取るように心がけている。その上で行政の相談窓口や他のサービスにつなげる等の対応をしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	調理や保存食作り、園芸や壁面飾り作り等好きなこと、得意なことが披露できる場を作るようにしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の思いや状況は面会や電話を利用して丁寧に知らせ、家族の協力を得ながら支援に努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会のしやすい環境や雰囲気作りに努めている。また、墓参りや地域の行事に出かけたり、年賀状や電話のやりとり等を通じて関係の継続の支援をしている。	隣接した病院にリハビリに来られる地域の方と交流したり、電話や手紙で近況を知らせるなど交流がある。家族の協力があり、毎年正月に帰省される方もある。また、毎月ヘアカットに来られる方とも顔馴染みの関係が築かれている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	力を合わせて調理の準備をしたり、レクレーションやゲーム、戸外でのお茶会等で交流が深まるように支援している。昨年は個々の持つ力を発揮して作品を作る目標を立てて実践した。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後もいつでも相談に応じる姿勢を示し、その後の経過に関心を持つようにしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	混乱や不安を減らし安心できる暮らしの実現のために言動をしっかりと観察するようにしている。嗜好調査や生活調査をして要望や意向にそえるように努めている。	生活調査を2年に1回実施し、利用者がどう生活したいか、行きたい所はないのかなど把握し、家族向けのアンケート結果も参考にして本人の思いや意向、希望などをケアに活かしたり、日々の暮らしぶりを見ながら面談時に直接聞くようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴、家族構成、職業、性格、趣味など詳細に聞き取り情報収集して混乱の少ない生活ができるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタル測定と体調観察を行い食事や水分摂取量や排泄状況の記録をして状態の把握をしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族、主治医、訪問看護師、理学療法士、介護スタッフ等の関係者と検討して介護計画を作成している。	利用者ごとに担当制にしており、2年おきに交代している。モニタリングは、毎月実施、計画の見直しも随時している。家族の会議への出席も良好で現時点での課題や、よりよい生活の実現に向け話し合い、本人や家族の意向を踏まえ現状に即した介護計画になっている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に日常の様子や支援方法、その結果や課題を記入して情報を共有している。また、毎月支援経過を作成して介護計画の見直しに生かすようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	週2回訪問看護の受け入れをして健康管理を担ってもらっている。希望者にはリハビリの送迎をして体力向上や機能維持を図っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	回覧板や市報、自治会長や民生委員の方から情報を得て外出や参加の機会を作っている。また、大正琴、歌やマンドリン演奏のボランティアを受け入れ楽しい時間を提供している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望する病院を受診してもらっている。職員の付き添いが必要な時は同行している。受診の際は採血結果のデータ等を準備して情報提供している。	本人や家族の希望する主治医となっており、外来受診にて診察を受けているが、体調不良時などは往診を受けている。訪問看護との医療連携体制も構築されており、異変がある場合は相談や適切な処置が受けられる体制がある。利用者のリハビリに対する関心も高く意欲的に取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週2回訪問看護時、症状や気づきを伝え助言をもらって診療につなげている。また、状態の変化や相談は昼夜を問わず行い早い段階で対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は書面で情報提供をしている。病院との連絡は密にとり治療内容や症状、経過の見通し等について相談している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に終末期に向けた方針について家族に説明し同意を得ている。支援の必要な時期には家族、主治医、看護師、病院職員、介護スタッフとその都度検討し情報の共有をして対応している。	契約時に「看取りについての指針」にて利用者や家族に説明し同意を得ている。しかし、重度化した場合は、口頭による説明に終わっている。管理者は早い段階から本人や家族の意思確認をした上で、事業所でできることを十分に話し合いながら利用者や家族の納得のいく医療や介護が受けられるよう支援をしているところではあるが、今後は、文書化することについても検討している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎年、消防署に応急処置法、心肺蘇生法、AED使用法等の指導を受けている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人が行う避難訓練に年2回、独自の夜間想定訓練を1回行っている。その際地域や家族の方にも参加してもらっている。	地域の協力体制もあり、夜間想定にて母体法人と合同で避難訓練を実施したり、ホーム独自の自主訓練は、運営推進会議と同時に実施しており、会議メンバーにも訓練の実施状況などを確認してもらうなどしている。水、食料などの備蓄もしている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念の尊厳を大切にする介護を目指して、声かけや言葉遣いについては折りにふれ全員で話し合い、言動を振り返り誇りやプライバシーを尊重した対応を心かけている。	年1回、接遇マナーの研修会を開催しており、尊厳や権利擁護を踏まえたサービスが提供できるよう徹底している。スタッフは、専用のカードを活用し、プライバシーに配慮したケアに努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	アンケートを実施して食べたいメニューや行きたい場所などについて思いや希望を出してもらっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	昼夜逆転にならないように活動を促しながら、本人のペースに合った暮らし方ができるように配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	好みの服を選んでもらったり、帽子やスカーフを使っておしゃれを楽しんでもらっている。また、季節に応じた服装、身だしなみを整える等の支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	手作りおやつの日、井や麺の日を決め、毎日のメニューはボードに明記して楽しみにしてもらっている。また調理の下ごしらえや片付けは利用者の力量に応じて参加してもらっている。	献立は、1ヶ月を二人の担当職員が作成している。家族や地域の方から食材の差し入れがあり、忘年会は一緒に食卓を囲んでいる。麺や井、手作りおやつ、行事食を楽しんだり、花見は、お弁当を手作りし出かけたり外食もしている。皮むきやもやしの根切りなどを、手伝いされる方もある。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や水分量は記録して必要量を確保している。また、年1回栄養計算をしてカロリーやバランスについて全員で学んで実践している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの声かけ、見守り、介助をして口腔内の清潔保持に努めている。また、個別で舌苔磨きを促し口臭予防をしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄記録をして排泄状況やパターンを把握した上で、トイレ誘導して失敗やオムツの使用を減らせるように支援している。	布パンツを着用する方、ポータブルトイレを併用し排泄の自立を図る方も多く、昼間は大半の方がトイレで排泄をしている。更衣を嫌がる利用者もいるが保清ができるよう支援している。居室は、汚臭などなく掃除が行き届いている。また、排泄記録の管理は、プライバシーに配慮されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量や排便状況を記録して把握している。また、体を動かす、起床時の水分、乳製品や芋などの摂取等の工夫をして便秘予防をしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	体調や失禁等、個々に応じた配慮をしながら一人ずつ入ってもらっている。歌や会話を楽しみながらゆっくりと過ごせるように支援している。	原則、隔日に入浴を楽しんでいる。浴槽に入りゆっくりと入浴される方が大半である。男性利用者が一人おられるが、入浴順は公平に決めている。入浴しながらコミュニケーションをしたり、歌や世間話に花が咲いている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を促し昼夜逆転にならないように気をつけている。不安や混乱で不眠の時は否定せず傾聴して安心してもらえるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬に対して正しく理解するように努めている。飲み忘れ等の間違いがないように声に出して与薬している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	花や野菜の手入れ、折り紙、塗り絵、習字、書写、大正琴等好きなことや趣味を生かして楽しみや喜びのある生活が送れるように支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	できるだけ希望の場所に外出できるように年間計画を立てて実行している。また家族の協力で希望の場所に出かけることができる。	毎日のように戸外に散歩に出かける方にはスタッフが付き添い、外出行事を年間計画し季節感を味わえるよう支援している。墓参りは、スタッフが付き添い個別の外出支援をしているが、心身機能が低下した場合などは、スタッフが代行したり、車窓からお参りするなどの手伝いをしている。歩くことがリハビリの一環としての意識もあり、利用者自身のモチベーションも高い。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望や力に応じてお金を持ち使うことができる機会を作るように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	いつでも電話ができるように支援している。年賀状や手紙のやり取りの支援をして大切な人との交流を続けてもらっている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関先には季節に応じた花や野菜を植えて成長や収穫を楽しんでもらい、館内は季節に応じた壁面作りをして、力を合わせて作った作品や習字、行事の写真を飾り居心地よく過ごせるように工夫している。	玄関前には、夏は朝顔など、季節の花々が植えてあり、廊下の壁には外出先での集合写真や習字、色紙の作品が展示してある。以前は、看護師寮だったが使いやすいよう工夫している。匂いや音が五感を刺激し、調理をする職員やお手伝いをされる利用者の会話や笑い声、大正琴を披露される利用者があつたりと食堂は利用者の居心地よいスペースになっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う同士で居室を訪問したり、廊下や玄関先の椅子で過ごしたりできるように工夫している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたタンスや椅子などの家具を持ち込んでもらっている。家族の写真やプレゼントを飾りなじみの物に囲まれ居心地よく過ごせるように工夫している。	家族写真、整理タンス、クッションなどの使い慣れた物を持ち込み居心地よく過ごしている。2年前転倒し、移動の安全性を図るため畳を活用している方がおられる。各部屋にポータブルトイレが設置してあるが、カバーが掛けてあり、居室の掃除なども行き届いている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	それぞれの状態や身体機能に応じて環境を整えて安全な生活が送れるように支援している。また、トイレや居室は表示して混乱がないようにしている。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない